

## 第14回 サイエンスカフェ参加者からの質問に対する 三宅先生からの回答

(当日、グループディスカッションの際出た質問の中から、時間の都合でお答えできなかった質問について、ピックアップしてお答えします。)

Q1) 見せていただいたビデオで、ワキの人が変わってなかったようですが流派に関係ないのですか？

A1) 江戸時代は座付制度でしたから、固定的でした。明治以降は自由です。人間国宝とか家元、NHK放映用という、大事な演能のビデオだったため、いずれも宝生閑という名人が勤めていました。

Q2) 狂言者が能をやる事はないのですか？

A2) 完全分業制です。ただし、現代の新作の場合は、わざと領域を越えて演じたりしています。



Q3) シテの即興性がどのくらいあるのでしょうか？

ジャズのようにその時の気分で変わってしまうこともあるのですか？

A3) 室町時代は大変自由に即興こそが信条というやり方でした。現代でも許される範囲では（この見極めはかなり大事で、しかも難しいですが）、自由です。

Q4) 物語を理解するにはどうしたらいいのでしょうか？

A4) 能をきっちり理解するには、典拠としているもとの素材をかなり知っておく必要があります。大体は現代でも古典として全集などに所収されたものが多いので、注釈付き・現代語訳付きの全集で、典拠の物語を読むと、能の世界もよくわかって、より面白さが増します。とはいえ、素材を知らなくても、能は十分楽しめますよ。

Q5) 能のシンプルさについて、なぜ(普遍化=シンプル?)なのでしょう？

A5) 能を支えてきた文化人達(室町・江戸の上層階級)が、そういう指向性を持っていたのでしょう。

それが日本的文化の一つの特色でもあります。



Q6) 能の新作の題材は古典文学や昔の話を基にしているのでしょうか？現代の話を基にしているのでしょうか？

A6) 多くは古典ですが、なかには現代をテーマにした物もあります。たとえば脳死だとか、原爆だとかいったものもあります。

Q7) これから能はどのように発展していくと思いますか？

A7) わかりません。それを決めるのは観客です。



Q8) 一般人にはよくわからない能がなぜこんなにも長く続いてきたと思いますか？

A8) 好きな人がいるのでしょうか。いつも。それは一般大衆ではないけれど、少しの熱心な愛好者に支えられているのだと思います。

Q9) 今日の羽衣の映像で、2つめの宝生流友坂（三川泉さん）と4つめの旧宝生流の野口兼資さんのものがありました。その2つについての演出と曲旨解釈の差について解説をお願いします。

A9) 基本的には同じです。三川泉さんは野口兼資さんを大変尊敬していらっしゃいます。ただ、昔と今とでは全体的な能の水準が変わっているし、だんだんおもしろく演じるようになってしまっています。



また、小書（特殊演出）を好む傾向があって、目先の華麗さ、説明的なわかりやすさが好まれる傾向が顕著です。そのため常座（シテがいつも立っている、正面向かって左奥、太鼓の側）で止めるという定型を、羽衣ではあまりやらなくなりました。舞いながら天に昇っていく、という姿を、橋懸りを使って見せたいのでしょうか。

Q10) 能の作品は主に室町時代のもものが多く、江戸時代以降のもものが極端に少ないようですがその理由は？

A10) あまりにもいい作品ができてしまって、以後の人たちがそれを越えられなかったからですし、また、伝統を大胆に越えて、新しい形式新しいやり方の魅力的な能を作りたいという欲求が、演者にも観客にもなかったのでしょうか。それに代わるものとして、浄瑠璃や歌舞伎が生まれたわけです。

Q11) シテはこの世の人ではないのですか？

A11) この世の人の場合も、幽霊、神、鬼、草木の精、天人などの場合もあります。

Q12) だれが作っても面は同じ表情になるのでしょうか？

A12) すべて違うでしょうね。「本面」という室町・江戸初期のオリジナルの面に対して、それを丁寧にまねた「写し」が現在使用される面の大半ですが、同じ本面を写しても、作り手が、その面をどう見ているか、どう解釈しているかで、同じ造形なのに、まったくちがった面ができます。写しの他に、本面にこだわらない自由に創作した「創作面」も、あります。これは千差万別です。



Q13) 定家かずらの舞では、途中で面がかわっているのですか？

A13) 同じですが、動き方で違って見えてくるのです。このことに気づいた方は、すごいですね。動いているうちに、だんだん見にくい面が美しく変身していくように見えます。それは縛られてぎこちなかった身体の動きが、だんだんスムーズになり、美しくなっていくためだろうと思います。そこまではなかなかビデオではわからないので、会場では触れませんでした。これが話題になったら、面白かったですね。



Q14) 野外、屋内で空間演出は変わるのでしょうか？また観客の方の解釈も変わりますか？

A14) 屋外だと大きく力強い演技をしないと、観客に伝わりません。また、観客も屋外だと開放的な気分で見ているので、見方も変わると思います。

Q15) 面の種類は限られているのですか？

A15) たくさんあります。ここにはとても書ききれませんので、たくさん出ている能面に関する本をご覧ください。

Q16) 三宅先生が能にはまったきっかけは何ですか？

A16) 拙著『世阿弥は天才である—能と出会うための一種の手引き書—』（草思社刊）を読んでいただけるとうれしいです。